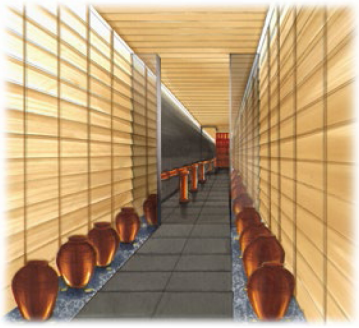

橋本夕紀夫氏による設計
当初のイメージパース

橋本夕紀夫
デザインスタジオ
橋本夕紀夫氏

愛知県・知多半島中央部の西岸、伊勢湾に面する常滑市は、常滑焼を産する焼き物の街として広く全国に知られている。常滑焼の歴史は古く、平安末期をその起源とする。鎌倉時代に入ると素朴で力強い瓶や壺が生産されるようになり、やがて日本全国へと波及。室町時代以降、常滑は生活用陶器の一大生産地となっていった。常滑焼は瀬戸、越前、信楽、丹波立杭、備前と並び、日本六古窯に数えられ、街には土管と瓶の壁に挟まれた土管坂や登窯、常滑陶の森、陶磁器会館、やきもの散歩道、とこなめ招き猫通りなど焼き物に関わる名所が数多く点在している。

この常滑の街に、2015年12月4日、20万2000㎡の広大な敷地に「イオンモール常滑」がグランドオープンした。“空と海を120％楽しむエンターテイメントパーク”をコンセプトに、専門性の高い商品やサービスを提供する「イオンスタイル常滑」を始め、約180店の専門店。更にはサーキットやバーベキュー、日帰り温泉施設など12のコンテンツを備えた「ワンダーフォレスト きゅりお」などを擁し、中京圏の新たなランドマークとなっている。

「イオンモール常滑」1階の飲食店フロア「常滑のれん街」には、屋内と屋外に2カ所の喫煙スペースが設けられている。設計を担当したのは、「常滑のれん街」の環境デザインも手掛けた空間デザイナーの橋本夕紀夫氏である。

「日本六古窯に数えられる常滑焼や招き猫など、地域の魅力を発信することも『イオンモール常滑』の施設テーマの一つであり、これらの要素を空間デザインにも取り入れています」と橋本氏。屋内喫煙スペースの広さは全体で約28㎡。細長い形状をしており、入り口から半分がアプローチを兼ねた前室、もう半分の奥が喫煙スペースとなっている。通路の両脇に砂利が敷かれ、その上に常滑焼の瓶が並ぶ前室は、まるで高級和食店のアプローチのような趣。奥の喫煙スペースにはベンチがあり、その前には「電らん管」を利用した灰皿が6台設置されている。電らん管とは、地中に電線ケーブル通すための土管のことで、常滑で古くから製造されている。そして、喫煙スペースの最奥には、タバコを持ったユーモアたっぷりの招き猫が据えられている。更に、招き猫の両脇には、柱まわりにミラーを貼ることで奥行き方向に広がりを見せるデザインだ。設備面では、排気口は天井に2カ所設けてあり、これによってイオンモールの基準である1時間に100回の換気回数をクリア。前室と喫煙スペースとは格子戸で仕切られ、この格子戸の隙き間が喫煙ルーム外からの給気口の役割を果たしている。

「喫煙スペースは、焼き物の窯のイメージでデザインしました。壁には、落ち着いた茶色の磁器質タイルを用いています。ツヤがあるものとないものを組み合わせた表情で、伝統的なレンガ積みの窯の質感を表現しています。磁器質タイルは多少の汚れが付着しても拭き取るだけで簡単にきれいになり、メンテナンス性に優れている点は喫煙スペースに適しています。オリジナルの灰皿に使った電らん管は丸みを帯びた四角形の土管で、中に四つの丸い穴が開いており、本来は地中に電線ケーブルを通すために使われるものです。これは、招き猫や瓶とともに常滑が生産地として知られています。今回は、この既製品の電らん管を土台にして、その上に同じ断面形状となるステンレス製のトレイを乗せて“常滑らしさ”と“地域への愛着”を感じられる灰皿をつくりました。喫煙スペースの奥に招き猫を置くことは始めから決めていました。『イオンモール常滑』では、招き猫がシンボル的なキャラクターとして施設内の随所に置かれています。単純にシックでかっこいい空間をつくるのは、さほど難しいことではありませんが、私は常にその空間に記憶に残る何かが欲しいと考えています。今回は、招き猫という分かりやすいシンボルがあったので、たばこを手に持つというちょっとしたアイデアを加え、記憶にとどめるポイントとして正面奥に設置しました。しっかり目立つようにスポットライトでライトアップもしています」

一方、屋外の喫煙スペースは、「常滑のれん街」から続く、地元の作家たちによる個性豊かな招き猫が並ぶ散歩道にある。広さは約15㎡で、格子の壁によって区画されている。花のような断面が見えるようにスライスした電らん管を規則正しく埋め込んだ床面の上に、屋内と同じオリジナル灰皿が7台設置された。灰皿がまるで地表から所々生えているかのようなデザインとなっている。

「喫煙者にもくつろぎの時間を提供するため、喫煙者だからこそ楽しめる魅力的な空間にしたいというのが今回の喫煙スペースの空間づくりの第一義でした。私はタバコを吸うという行為を、お茶やコーヒーをたしなむことと同じだと考えています。ですから、それに見合う設えが必要です。屋内の喫煙スペースは、入った瞬間にここが喫煙室だと分からないように、そのままバーとしても使えるような空間としてつくり込みました。屋外でも、施設の一角に既成の灰皿を置いておしまいではなく、天気の良い日にゆったりとなごめる喫煙スペースにしたいと考え、床のデザインに気を配り空間を構築しました」

「イオンモール常滑」は世界各国との国際線が行き交う国際空港である中部国際空港セントレアから電車でわずか一駅、無料のシャトルバスも運行するほどの近さ。この施設では、地域の人々だけでなく、海外からのインバウンドも重要なターゲットと位置付けているという。

「近年、個人の立場を尊重し合う“分煙”という概念が生まれました。この日本の分煙という考え方は、世界に誇れる文化だと思っています。海外からの客が『イオンモール常滑』を訪れ、日本にしかないサービスを受ける中で、この決められた場所で、それもちゃんと設えられた空間でたばこを吸うということも体験して欲しい。『イオンモール常滑』の喫煙スペースを通して、吸う人にも、吸わない人にも豊かさを提供する日本の“おもてなし”を感じてもらえるだろうと自負しています」（橋本氏）

DATA
設計／橋本夕紀夫デザインスタジオ
開業／2015年12月4日
所在地／愛知県常滑市りんくう町2丁目20-3

協力：BAMBOO MEDIA
http://bamboo-media.jp